

# あすの淡海

自然と人との共生をめざして

VOL.

51

2025 秋号



わたしたちの暮らしと下水道



# わたしたちの暮らしと下水道

## ～びわ湖を守るしくみ～

下水道は、衛生的で快適な暮らしの実現、河川やびわ湖の水質の保全、浸水被害を防ぐ役割があり、住民生活や社会経済活動を支える大切な社会インフラです。

わたしたちは、暮らしの中で飲み水や風呂、トイレ、洗濯など様々な用途に水を使用しています。蛇口をひねればきれいな水が必要とするだけ流れてきますが、その水はどこから来るのでしょうか。

滋賀県の水道水の水源は7割近くがびわ湖からの取水です。取水された水は浄水場で処理された後、水道水として供給されます。

一方、わたしたちが使った水はどこに流れていくのでしょうか。

使った水も、下水道を通してほとんどが水道水の水源であるびわ湖へ流れていきます。

### 下水処理のしくみ

家庭や事業所からの雑排水や汚水は、下水道管に流れ、ポンプ場などを経由して浄化センターに集められます。

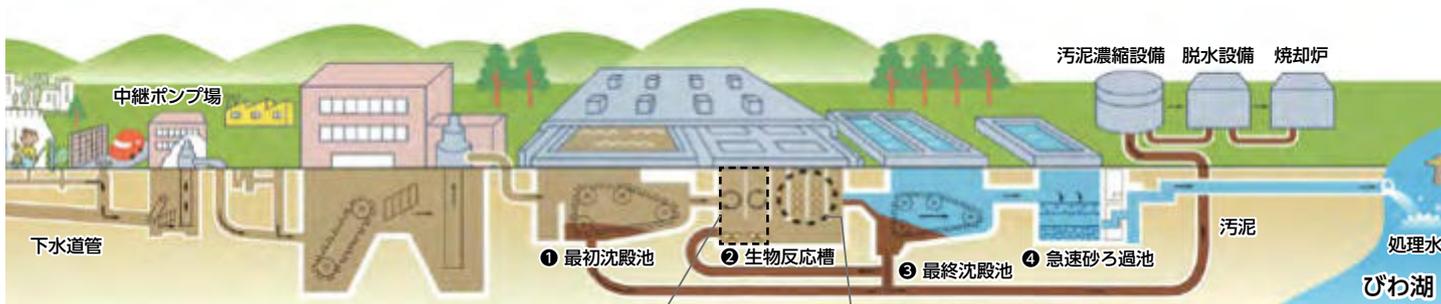
滋賀県では、右図の4つの浄化センターなどで、集まった水をきれいにしてびわ湖に流しています。

こうしたことから、私たちの普段の生活では使用後の水を目にするのではなく、その水の未来もあまり意識することはないかもしれません。下水処理のしくみを知ることにより、びわ湖の恵みや私たちの暮らしを考えるきっかけにしましょう。



滋賀県琵琶湖流域下水道区域図

### 浄化センターでの水質浄化のしくみ



微生物が下水にいきわたるように下水をかき混ぜています

微生物の働きを助けるために空気を送ります

- ①最初沈殿池：まず、下水に含まれる小さなごみを沈めて取り除きます。
- ②生物反応槽：微生物が下水の汚れを食べて水をきれいにします。
- ③最終沈殿池：汚れを食べて重くなった微生物などを沈めて取り除きます。
- ④急速砂ろ過池：最終沈殿池から出た水を消毒した後に砂の層を通して細かいごみを取り除きます。



ブース出展での普及啓発



浄化センターで現地確認をする財団職員

自然の中には、汚れた水をきれいにするさまざまな生き物の働きがあり、浄化センターも、微生物の力によって水をきれいにしています。

しかしながら、その微生物の力を超えるほど汚れた水が流れ込んできたらどうなるでしょうか。「下水道があるから」と安心して、水をたくさん使ったり、汚れた水を流したりしてしまうと、微生物の力では浄化しきれなかった水が、そのままびわ湖へ流れてしまうのです。

このように、目には見えませんが、私たちの暮らしとびわ湖はつながっています。浄化センターでの水質浄化のしくみを知ることにより、多くの生き物のいのちを育むびわ湖の水をともに守っていきましょう！

淡海環境保全財団は、下水道の役割や浄化センターのしくみについての普及啓発のほか、県の流域下水道浄化センターの水処理が健全に行われるよう、専門的な知見から評価や改善提案等を行っています。

# この人に聞く



滋賀県琵琶湖環境部下水道課  
参事

まつもと ひろし  
**松本 寛** さん

びわ湖は「私たちの暮らしを映す鏡」「地球環境を見通す窓」といわれます。下水道をはじめとした汚水処理施設がびわ湖の水質保全に対して果たす役割は非常に重要です。

琵琶湖流域下水道事業は、昭和47年に開始され、昭和57年に湖南中部浄化センターが運転を開始し、びわ湖の富栄養化防止対策として、窒素・リンを除去する高度処理を実施しています。その後、県内3か所に高度処理能力を有する浄化センターが設置されました。

琵琶湖総合開発のもと急ピッチで下水道が整備され、令和6年度末時点で滋賀県下水道の普及率は93.4%と全国第6位の水準となっています。

現在、本県の下水道は、「建設の時代」から「維持管理の時代」に入っています。このような中、滋賀県の下水道事業の維持管理業務に長年携わられている松本寛さんにお話をお聞きしました。

## ー滋賀県職員になられたきっかけを教えてください。

**松本さん** 中高時代、ラジオ製作などが流行り、アマチュア無線をしていて、当時は就職でも電気・電子の分野が花形で、大学の電気工学科に進みました。研究室では電子デバイスという半導体をつくる研究でしたが、学部だけでは何をしているのかよくわかりませんでした(笑)。卒業を迎え、メーカーなどの選択肢もありましたが、田舎の長男で地元がいいな、と思っていると、県で電気職の募集があり、何をするのもよくわからないまま志望し、採用となりました。いわゆる「でもしか」公務員ですね(笑)。

## ー滋賀県の電気職の職員は電気設備の計画、管理などを行う部署に配属され、下水浄化センターもその一つです。下水道の業務に携わるようになって、どのようなことが記憶に残っていますか。

**松本さん** 最初は建築の部署でしたが、次は下水道の部署へ配属されました。基本業務は電気設備の点検や修繕などの維持管理でしたが、時々、通日試験といって、夜通し採水して処理工程の変化を把握する試験にも参加し、水質分析も行いました。合宿みたいで楽しかったですし、電気や機械に加え水質の知識も得ることができました。また高島浄化センターの供用開始(1997年)にも関わりました。準備と最初の1年間だけでしたが、なかなか下水が増えずに、やっと1日100m<sup>3</sup>を超えた!と喜んだのを鮮明に覚えています。

## ー県民の皆さんに知ってほしいことは何ですか。

**松本さん** 下水道の業務に従事後しばらくして、全国の下水道職員の研修会で「滋賀県ですか、すごいですね!」と言われました。当時、びわ湖の水環境改善に向け下水道事業に力を入れていた滋賀県は高度処理のトップランナーで、全国的に有名だったからです。その後各地の処理場を訪れましたが、滋賀県の処理場は施設も整っています。特に湖南中部浄化センターは、規模も大きく、最新の方式の水処理施設もあって、日本でも有数の処理場です。滋賀県の下水道はすごいんだぞ、ということをもっと県民の皆さんに知っていただきたいと思っています。

## ー現在、琵琶湖環境部下水道課ではどのようなことに取り組まれていますか。

**松本さん** 下水道課には8年と長く勤務し、維持管理の仕事を主にしていますが、国際展開や普及啓発も含めて庁内外の調整が多くなっています。琵琶湖環境部はびわ湖とその流域の環境に関連する様々な分野を所管しています。また県庁内の様々な部署とも関係があるので、いろいろな人との交流が広がりました。数えてみると県職員生活38年目で、そのうち下水道が25年になりました。現場経験を活かしながら、業務に取り組んでいます。

## ー仕事以外でも人との交流が大切かと思いますが、趣味や特技があれば紹介してください。

**松本さん** 「ももいろクローバーZ」のファン(モノノフ)を12年以上続けており、ライブには全国遠征して応援しています。彼女たちの一生懸命さ、屈託のなさに惹かれています。メンバーが30歳を迎えた今でも、その魅力は色褪せません。皆さんもぜひライブの動画などを見てみてください!一緒にライブでペンライトを振りましょう!他には、歴史や旅が好きなので旧街道を1日20kmほど歩いて東京を目指したり、バイクツーリングの様子などをブログで紹介しています。いろんな世界に触れることは大事ですね。

## ーこれからの下水道事業の課題は何ですか。

**松本さん** 下水道事業は第三の時代に入っていると感じています。第一の昭和から平成初めの時代はとにかく予算をかけてびわ湖をきれいにするために、施設の建設や整備をひたすら進めた時代、第二の平成時代は一定整備が終わり、安定した収入を得ながら維持管理をしていた時代、そして令和以降の第三の時代は、人口減少社会で、なおかつ老朽化も進行していく中、みんなで知恵を絞りながら維持していく時代だと思います。気候変動や地震にも備える必要があります。これからは大変なことが多くなると思います。

## ー下水道事業に携わる職員にエールをお願いします。

**松本さん** 下水道は使えて当たり前という前提のもと取り組むこととなるため、難しさがあると思いますが、人々の暮らしと健康を支える大切な仕事です。

先ほど滋賀県の下水道はすごい!と言いましたが、それは第一の時代に取り組まれた先輩方のおかげであり、私はその遺産で生きてきたようなものです。これからは課題が多いと思いますが、課題があるからこそ新たな技術やアイデアが生まれます。職員の皆さんには、日はまた昇るではありませんが、滋賀県の下水道はやっばすごい!と言われるような新たな取組にチャレンジしてもらえたら、と思いますし、それができる素地が滋賀県にはあると思っています。

また、ぜひ様々な分野の人とネットワークを広げてほしいと思います。趣味の世界でも良いです。ネットワークや視野を広げることで、仕事も進めやすくなると思います。



フル装備での「ももいろクローバーZ」の応援

# 淡海 ヨシ紀行

～淡海の原風景を訪ねて



## 第5回 伊庭内湖(東近江市)後編

伊庭内湖周辺のかつてのヨシの利用状況を知ることができる資料に「葭地検地帳」があります。これは彦根藩が領内の葭地を把握するために行った検地の記録で、ヨシ地を「上葭」、「中葭」、「下葭」、「下々葭」、「草」、「荒」に区分しています。上・中・下・下々はヨシ地の等級ですが、「草」は「草葭」とも呼ばれ、農業の肥料として利用された重要なもので、個人所有の他に入会地もあり、草葭をめぐる争論もあったようです。

また、『滋賀県物産誌』には明治初年に栗見出在家村のヨシが長浜へ販売されたことが記録にあり、「上葭」や「中葭」など品質の良いヨシがこの地で生産され、広域に流通していたことがわかります。

こうした上質のヨシを使った製品の生産・販売の伝統は現在も引き継がれています。東近江市福堂町の株式会社タイナカは、西の湖のヨシ地で刈り取り、火入れなどの作業を行うほか、伊庭内湖で刈り取られたヨシも引き取られています。入荷したヨシは選別し、良質のものは京都などの高級建具業者へ出荷するとともに、自社でも簾などに加工されています。

また、中等以下のヨシは葭葺屋根に使用するた



大濱神社・仁王堂

め、各地の葭き替え工事を請け負っておられます。

『文化的景観「伊庭内湖と水路の村」調査報告書』によると、伊庭町にある大濱神社仁王堂の屋根は「茅葺屋根」と記載されていますが、現地を確認すると葭葺であることがわかります。天井裏には屋根の葭き替えの際に掲げられた奉納額があり、葭き替え工事が行われた時期がわかります。伊庭町では自治会や大濱神社の氏子の皆さんが伊庭内湖のヨシを刈り取り、これをストックして何年かに一度の葭き替えに備えています。また、伊庭祭では大濱神社の本殿から神輿へ神遷しを行う際に、供物としてヨシの葉で巻かれたチマキが作られ、神事が終わるとチマキがまかれます。このように、伊庭内湖ではヨシが地域の文化財や祭、さらには住民の暮らしや信仰の中に深く根付いています。

近年、ヨシ生産業者の後継者不足などにより、ヨシの生産と保全の循環が滞ってきています。こうした中、伊庭内湖では住民や氏子の皆さんが協力してヨシの刈り取りや火入れを行い、刈り取ったヨシを地元の文化財に使用するとともに、祭や行事にも取り入れており、この貴重な取組が将来にわたって引き継がれていくことが望まれます。



仁王堂の内部

## 滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



森上 記子さん  
大津市在住

今回は、「森林インストラクター」の視点から気候変動への危機感を抱いて推進員に応募され、わかりやすく力強い発信をされているこの方です。

第12期の推進員になって半年後、「やまのこ」学習の教材開発チームに加わりました。小学4年生に森林のすばらしさを伝えるため、教材を3年がかりで練り上げ、今春より出前講座を開始しました。

二酸化炭素を吸収する森林の機能を伝えるのは必須ですが、まずは、「森林の生態系」を示すピラミッドのパネルを提示することにしました。私たち人間もこの生態系の一部であり、自然の恵みをずっといただいているのですから。

この「森林の生態系」を維持していくためには、森林の循環が大切です。そこで、木のよさや持ち味を伝えようと講座の後半には、木とふ

れあうワークショップを設定しました。

一期一会の講座で、緊張感も半端ないですが、仲間の存在が勇気を運びます。子どもたちが自分と森とのつながりを少しでも感じてくれることを願って、回を重ねていきたいです。



完成したプログラム「森とつながろう」で森林保全の重要性を伝える森上さん

地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、知事から委嘱され、温暖化防止にかかる普及啓発が行われています。



## 大津緑の少年団の皆さんが淡海環境プラザを訪問されました

8月5日(火)、大津緑の少年団の皆さんが淡海環境プラザに来館されました。

淡海環境プラザの館内には、びわ湖や水環境、資源循環、地球温暖化、生物多様性の保全など、暮らしと環境に関わるテーマについて、楽しく学べる展示が数多く設けられています。当日は、こうした展示の見学に加え、次のプログラムを実施しました。

- ◎下水道のしくみについてのお話
- ◎水をきれいにする施設の見学
- ◎体験学習プログラム「森とつながろう」
- ◎びわ湖のヨシや木の実を使ったネックレスづくり

自然と人との共生や、環境を守るための取組みについて、体験を通して学ぶ貴重な機会となりました。



## 「すすめ!!びわっこ探検隊」夏季プログラムを実施しました

7月26日(土)に琵琶湖博物館周辺で「すすめ!!びわっこ探検隊」夏季プログラムを開催しました。

参加者の皆さんは、ライフジャケットと胴長に身を包み、琵琶湖博物館前のびわ湖岸で生きもの採取を行いました。トンボの幼虫のヤゴやライギョの幼魚などを採取でき、まさにびわ湖の“今”を知ることができました。

また、びわ湖の湖岸に漂着したごみを回収し、ごみによってもびわ湖の生物の生息環境が脅かされていることを実感しました。

フィールドワークの後には、外来種はどうやってびわ湖に入ってくるのか、そしてびわ湖の在来種にどんな影響を及ぼすのかなど、生態系保全の大切さを学びました。



今回は、10月18日(土)、東近江市の雪野山歴史公園でびわ湖と森のつながりについて学習します。県土の約半分を占める森林は、びわ湖の水を育む水源のかん養、生物多様性の保全、土砂災害の防止など多面的な機能を有しています。当日は、森林インストラクターと普段できない特別な体験していただきます。皆さん、ぜひご参加ください。(申込P.6参照)

## 「もりやまおやこ脱炭素アクションフォーラム」が開催されました

夏休みの日曜日の7月27日、守山市の商業施設モリーブで、守山市のゼロカーボンシティ宣言を受けて、地球温暖化防止や脱炭素への市民理解を深めていただくことを目的に「もりやまおやこ脱炭素アクションフォーラム」が初めて開催され、当財団が企画運営を担当しました。

当日は、家族連れを中心に約370名が来場し、脱炭素について楽しく学んでいただきました。



会場にはさまざまなブースが並び、夏休みの自由研究を応援するスタンプラリーやワークショップ、自由研究相談コーナーも大好評で、明るい日差しの差し込む会場は、親子連れの熱気に包まれました。特に今回は、地球温暖化防止活動推進員の皆さんの協力による啓発ブースや、新たに制定された「世界湖沼の日」をPRするクイズ企画が注目を集め、自然との共生や資源循環など、持続可能な社会の実現に向けた学びの場ともなりました。

来場された皆さんが、このイベントをきっかけに「自分にできること」を見つけ、日々の暮らしの中で一歩ずつ行動に移していただけることを願っています。



## お知らせ 参加者を募集します

いずれも事前申込が必要です。  
お問い合わせは下記の連絡先をお願いします。  
詳しくは財団ホームページをご覧ください。

イベント名	開催日	時間	場所	内容
自然体験学習 「すすめ！！びわっこ探検隊」秋季プログラム	10月18日 (土)	9:00 ～ 13:00	雪野山 歴史公園 (東近江市 上羽田町)	ネイチャーゲームや野外調理、里山保全活動を体験し、びわ湖と森のつながりを学びます。 ※県内在住の小学4年生から中学2年生が対象(参加費500円) 申込締切10月10日(金)
淡海ヨシボランティア (ヨシ植え)	11月3日 (月・祝)	13:00 ～ 15:00	野洲市 菖蒲地先	びわ湖のヨシ原を守るため、当財団で育成したヨシ苗を植えていただく、ボランティアを募集します。 申込締切10月31日(金)
「デコ活」講演会 講師 正木 明さん (気象予報士) 演題 「迫りくる気候危機～私たちにできること～」	11月29日 (土)	14:30 ～ 16:00	コラボしが21 大会議室	 猛暑・豪雨・大雪…なぜ異常気象が増えているのか？朝日放送テレビの天気予報でおなじみの正木さんに気候変動のメカニズムと私たちが暮らしの中でできることについて、わかりやすくお話いただきます。(参加無料) 申込締切11月21日(金) (先着順)

## ご寄附をいただきました

### しがぎんリース株式会社 様

しがぎんリース株式会社様から、事業者の脱炭素に資するエコカー導入をサポートするサステナリースの収益の一部を当財団にご寄附をいただきました。



しがぎんリース(株)様

### びわ100実行委員会 様

びわ湖チャリティー100km歩行大会(通称「びわ100」)は、びわ湖や滋賀県各地の環境保全に貢献するチャリティー歩行大会としてこれまでに10回開催されており、このたび当財団のヨシ群落保全の活動資金としてご寄附をいただきました。

### 京セラTCLソーラー合同会社 様

矢橋帰帆島でメガソーラー事業を展開されている京セラTCLソーラー合同会社様(京セラ(株)・東京センチュリー(株)様出資)から、当財団が実施する環境啓発活動の資金としてご寄附をいただきました。

寄附金は、「デコ活」ポスターコンクールや「デコ活」講演会の開催に活用させていただきます。



京セラTCLソーラー(同)様

## 編集後記

今年の夏は記録的な酷暑となり、日常生活やイベントの開催にも大きな影響を及ぼしました。熱中症への警戒が呼びかけられる中、改めて気候変動の深刻さを実感した方も多いのではないのでしょうか。家庭や地域での省エネ行動や身近な工夫が、未来を守るための大切な一歩です。小さな実践を積み重ね、次世代へ少しでも涼やかな夏を手渡せるよう、ともに歩んでいきたいと強く思います。

## あすの淡海

VOL. 51

2025  
秋号 (年4回発行)

発行



公益財団法人  
淡海環境保全財団

〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町字帰帆2108番地  
TEL : 077-569-5301  
FAX : 077-569-5304  
E-mail : info@ohmi.or.jp

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

TEL : 077-569-5301 FAX : 077-569-5304  
E-mail : ondanka@ohmi.or.jp

淡海環境プラザ

TEL : 077-569-5306 FAX : 077-569-5334  
E-mail : plaza@ohmi.or.jp

### 読者アンケート

今後のより良い情報発信のため、QRコードからアンケートにご回答ください。いただいた内容は、今後の企画や改善に活用させていただきます。



- 用紙: 責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
- インキ: 環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷